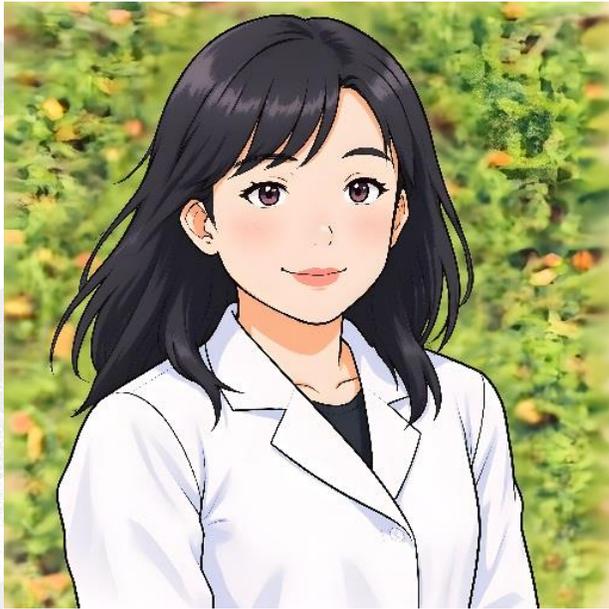


公衆衛生医師ってどんな仕事？どうやったらなれるの？

実際に県で公衆衛生医師として働かれている、健康対策室 感染症・疾病対策課の福尾篤子先生にお話をお聞きしました。若手ながら落ち着きがあり、柔らかな話し方が魅力的な先生です。



福尾篤子先生

富山県出身。
2019年富山大学医学部卒業。
初期研修を新潟県の上越総合病院で2年間行った後、富山大学第二内科入局。大学と公的病院で循環器内科医師として勤務し、2023年富山県に公衆衛生医師として入庁。

－病院とは違う場所から医療を見たい－

上越の病院で初期研修を行い、富山大学の循環器内科に入局しました。3年目は大学、4年目は公的病院で勤務していました。

公衆衛生医師を目指すきっかけは、心不全の患者さんが増え続け、退院と再入院を繰り返してしまう状況に、モヤモヤしていたからです。その患者さんにとって自分がもっとできることはないか、悩む部分もありました。

そんな中、健康問題が重なり今まで通りの働き方が続けられないかもしれない、自分はこれから何をやっていこうかなど考えた時に、自分が感じていた疑問や悩んでいたことに対する解決策が病院とは違う場所から医療を見ることで見つかるかもしれないなど考えて、公衆衛生医師という仕事に興味を持ちました。当時はコロナで、公衆衛生医師が世間から注目をされていたということもありました。

－県庁に連絡してまず見学－

ホームページなどを調べると、公衆衛生医師についての色々な情報はありました。ただ、実際どういうところで働くのかというイメージが全く湧かなかったので、まず医務課の方に連絡して見学をしてみました。

見学では、色々なお話を聞くことができ、幅広い分野で業務があるんだなと感じました。1～2時間ぐらいの訪問でしたが、お話を聞いて、挑戦してみたいなという気持ちに傾いていました。

その後、当時の上司や教授にご相談ご挨拶させてもらいました。こちらの事情も理解した上で、「もしまた何かあればいつでも支えるからね」というお返事をいただけただけは嬉しかったですね。

—通訳に近い感じですかね—

新任採用研修で、文章の作り方や、県における財政収入と支出、接遇に関してなど基本的なことを学ぶ期間がありました。今に生きることについて、電話の取り方一つにしても医師の頃と全然違いますね。こちらのお伝えの仕方とか、求めていることの見極めとかもすごく頭を使います。基礎的な事務からやることで、周囲の方との信頼関係も少しずつ作れたかなと思います。入庁した時に同じ係だった同僚は、今年別のところに異動したんですけど、今でもご飯に行くなどつながりは続いています。

医師であることを活かしていると感じる場面もあります。専門家の話を一般職が聞いたときに理解が難しいこともあるので、簡単な言葉に言い換えたり、行政の言葉に変えたりという役割を果たしていると感じています。通訳に近い感じですかね。

—効率的に、効果的に—

印象に残ったし頑張って取り組んだのは、担当する事業の拡充ですね。実際に診療に当たられている先生方から、会議の開催回数や参加者の拡充について要望をいただき、係内で検討して方針を決め、財政課に予算要求を上げていく。1年目の時は目の前の業務をこなすことが精一杯だったんですけど、2年目からはどうすればもっと効率的に効果的にやれるのかということを考える余裕が少しできたかな、と思います。今年で3年目になりましたが、最近は医学的なところや事業の背景など相談受けることも増えてきて、嬉しいなと思っています。



担当として任されたプレゼンテーションの一場面

－休みは取りやすいと感じています－

給与については、勤務医と大きくは変わらないと感じています。有給休暇は年間20日間あり、通院や付き添いにも使えています。プラスして夏休み（夏期休暇）が5日間あり、固まって取得することが推進されています。周りの方と調整しながらではありますが、休みは取りやすいと感じています。

残業については、少ないかなと思います。鳥インフルエンザとかコロナとか、緊急のことがあれば対応に行かないといけないですが、土日祝日は基本にお休みです。

－システム作りに関れたら－

今後も、さまざまな事業や部署を経験して経験値を高めたいと思っています。公衆衛生協会の事業で、全国の公衆衛生医師とお話する機会は、普段の業務へのモチベーション向上につながっていますね。最近は、地域保健を知る機会として厚生センター（保健所）での業務を経験してみたいと思っています。

ゆくゆくは、元々興味のある循環器病対策とかに関わったら嬉しいなと思っています。総合病院とかかりつけ医との連携がもうちょっと深まるようなシステム作りに関れたらと思います。

－人と人とのつながりを大切に－

人と人とのつながりが大事な仕事で、そういった意味でも臨床で働いていた経験が生きてくる場面はすごく多いです。地域単位で住民の方の健康を見たいなと思った時、公衆衛生医師はとても良い選択肢の一つだと思うので、ぜひ仲間が増えると嬉しいなと思います。



実際に診療に当たられている先生方から要望を確認します

富山県では、公衆衛生医師を募集しています。公衆衛生医師の魅力や一人一人の思いが見えるような記事をお届けしていきたいと思っています。